シンポジウム

家族支援を地域の「あたりまえ」に

～届く・続く・つながる支援を考える～



発達に特性がある子を支えていくために、その家族への支援が大切だということが随分と知られてきました。家族支援に力を入れてきたPakaPakaでは今、支援の輪が少しずつ地域に広がるのを感じながら、必要な家庭への届きにくさや継続の難しさなど、リアルな課題も感じています。
家族支援を、地域の「**あたりまえ**」にしていくには？シンポジウムで一緒に考えてみませんか。

❶基調講演

支援がうまくいかないのはなぜ？
こどもをけずらない5つの視点



講師 早川 星朗（せいろう）先生
（ほがらか星 親と子の発達クリニック院長／児童精神科医）
毎日クリニックで子どもと向き合っている早川先生。親や周りの人が、子どもの様子から何を察知し、どう支えたらいいのか、ヒントがもらえそうです。

❷話題提供

荻野 ます美さん
（NPO法人ゆう 常務理事）
家族の人たちは、家族支援についてどう感じているんだろう。支援者はどんな意識で家族をサポートしているの？家族・支援者の両方の立場からお話が聞けますよ。

❸実践報告

土肥 りさ
（NPO法人PakaPaka 副理事長）
家族支援に力を入れてきたPakaPakaからは、これまでの実践報告。良かったことよりむしろ「ここが難しい」「ここはまだまだ足りない」を皆さんと共有したいです。

❹パネルディスカッション

家族支援、どうやって届ける？広げる？

各パネリストたちが家族支援の課題とこれからについて、意見交流。それぞれの立場で何ができるのか、どんな連携ができそうか、必要な家庭にどう届けるか・・・。皆さんも一緒に考えましょう！

- 早川 星朗先生（ほがらか星 親と子の発達クリニック院長／児童精神科医）
- 荻野 ます美さん（NPO法人ゆう 常務理事）
- 土肥 りさ（NPO法人PakaPaka 副理事長）
- 竹内 弓乃さん（NPO法人ADDS 共同代表）

※ファシリテーターは土肥克也（NPO法人PakaPaka理事長）が務めます。

タイムテーブル

12:30	開場
13:00	開会
13:10	基調講演
14:40	休憩
14:50	話題提供
15:05	実践報告
15:20	パネルディスカッション
16:30	閉会

日時 2027年 **1月30日(土)** 13:00～16:30（12:30～開場）

参加無料だよ

会場 **日本福祉大学 東海キャンパス C201**
名鉄太田川駅から西へ徒歩5分
駐車場のご用意がないため、公共交通機関でのご来場にご協力をお願いいたします。

定員 150名 要参加申込

お申込み方法【申込締切／1月15日(金)】
申込はこちらのQRコード（申込フォーム）
またはメールアドレスへ直接どうぞ
paka201510@gmail.com
①お名前（漢字フルネーム，読みがな）②ご所属（保護者の方は保護者とご記入ください）
③何でお知りになったか をご記入の上お申し込みください。

主催・お問合せ NPO法人 PakaPaka TEL 0569-77-0492（知多郡武豊町熊野51番地2）

後援／武豊町、武豊町教育委員会、半田市、半田市教育委員会、南知多町、南知多町教育委員会、美浜町、美浜町教育委員会、愛知県自閉症協会つぼみの会、あいちLD親の会かたつむり（市町は五十音順）

咲かせよう笑顔の花を未来まで 休眠預金活用事業

登壇者紹介

早川星朗 先生

児童精神科医。岐阜大学医学部卒業。20年以上にわたり発達障害の診療に携わる。PECS® やTEACCH® 、(株)おめめどうの支援ツールなど、視覚的・構造化支援を実践。自身もAD/HDの特性を持ち、長男が自閉スペクトラム症で、当事者・家族・医師の三つの立場をあわせ持つ。2024年12月に「ほがらか星 親と子の発達クリニック」を開院し、子どもを削らない第2世代SST【ほがらかSST® 】を提唱。支援ツールを子どもと一緒に作る支援に取り組んでいる。

―専門分野・主な活動―
・発達障害(自閉スペクトラム症、AD/HDなど)の診療
・視覚的支援・構造化支援、支援ツールを子どもと一緒に作る支援
・保護者向けペアレントプログラム(家族支援)
・保育園・学校・福祉事業所・企業への訪問コンサルテーション
・講演会、啓発動画の制作、SNSでの発信

竹内 弓乃さん



大学生時代の2006年に立ち上げた学生団体をNPO法人へと育て、一貫してエビデンスにもとづいた発達支援に取り組む。NPO法人ADDS共同代表。休眠預金活用事業資金分配団体であり、PakaPakaの休眠預金活動にも大きな支えになってきた。

荻野 ます美さん



NPO法人ゆう常務理事。静岡大学教育学部卒業、日本福祉大学福祉経営学部(通信)卒業。社会福祉士、相談支援専門員、ペアトレファシリテーター、ペアレント・メンター。
2000年に夫の赴任先のアメリカで長男が自閉症と診断される。帰国後NPO法人ゆうの設立に参画。2004年よりゆうに勤務しながら、発達障害理解のための啓発セミナー講師として全国を回る。愛知県内の小中学校や特別支援学校において現職研修を担当。TEACCH、PECS、ABA、ペアレントトレーニング、CAREなどを学び、現在は相談支援専門員として本人及び家族支援をしながら、ペアトレやTトレ、自閉症の方への標準的な支援に関するセミナー、福祉事業所向け職員研修などの講師を務めている。夫・娘・息子の4人家族。豊川市在住。

―専門分野・主な活動―
自閉症啓発キャラバンSwing(通称岡キャラ)代表
NPO法人ゆう ゆう相談支援 管理者兼相談支援専門員
愛知県自閉症協会・つぼみの会 理事
TEACCHプログラム研究会愛知県支部 世話人 など

土肥 りさ



聖隷介護福祉専門学校で介護福祉士を取得。5年の高齢者施設勤務を経て、日本福祉大学へ社会人編入。在学中に障がい福祉系NPOの立ち上げに関わる。長男が発達障がいであることがきっかけとなり、2015年3月NPO法人PakaPakaを夫とともに立ち上げる。現在は副理事長として運営に携わりながら、発達障がい児の家族支援の充実を目指し活動している。20歳・18歳の息子の母。愛知県ペアレント・メンターとしても活動中。

休眠預金事業でPakaPakaが取り組んできたこと

休眠預金って? 10年以上、入出金などの取引(異動)がない預金を原資に、「休眠預金等活用法」に従い、子ども若者支援、生活困難者支援、地域活性化等支援の3分野において、社会課題の解決に取り組むNPO法人などの民間団体への支援に活用されます。PakaPakaでの事業活動にも2024年度から3年間、活用させていただきました。

子どもひとりひとりに合わせた、専門的な支援を強化しました

これまでも「ABA(応用行動分析)」という、科学的にしっかりとした根拠のある手法をベースに療育を実施。さらにこの3年間では子どもひとりひとり段階に応じた支援の方向性を確認できるアプリを導入し、勘や経験に頼らない、足並みをそろえた支援をしています。

保育士さんが親御さんへペアレントトレーニングを伝えられるようにしました

ペアレント・トレーニングとは、保護者が子どもの行動の理由を知り、家庭での関わり方を学ぶプログラム。保護者向けの講座はこれまでも実施してきましたが、園児を通して親御さんと関わることができる保育士さんたちにもペアトレを学んでいただきました。

学校や放課後等デイサービスとの連携が力強くなってきました

子どもが過ごす場は、家庭だけではありません。
PakaPakaのような放課後等デイサービスや、学校、保育園、幼稚園などと「連携して」支えることが大切。お互いの専門性を生かしながら、相談し合って支えていく仕組みが少しずつ育ってきました。